

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第306号 2022年10月27日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



ワールドコラボフェスタ (2頁)

◀◀ 目次 ▶▶

ワールドコラボフェスタ (堀田裕彦、後藤みわこ)	2
日本エスペラント大会の感想 (水谷良典、小川博仁、伊藤俊彦、今井田健二、湯浅典久、後藤みわこ)	3
第107回世界エスペラント大会宣言 (今井田健二訳)	9
対訳『私たちは生きる！ Ni Vivos!』について (黒柳吉隆)	11
Vidindaj Lokoĵ en kaj ĉirkaŭ Nagojo (13) (Katayama Hiroko).....	12
活動日誌・活動予定.....	13
編集後記	14

ワールドコラボフェスタ

名古屋エスペラントセンターは、ワールド・コラボ・フェスタ2022(10月22日～23日)。主催：(公財)愛知県国際交流協会 同実行委員会)に参加し、エスペラント広報のブースを出展した。ワールド・コラボ・フェスタは、コロナ禍や台風来週が続いたため、今年は3年ぶりの現地開催。

出展日時は、10月22日10時から17時半、場所は、オアシス21「銀河の広場」一般ブース B26。センターの会員8人が交代で対応。スタンプラリーでは、エスペラントについてのクイズを出題し、おとなから子供まで100人近くの市民へのエスペラント広報と交流ができた。

(堀田裕彦)

「世界大交流」のお祭りイベント「ワールドコラボフェスタ」へのブース出展は、エスペラント語を知ってもらう大きなチャンスのひとつです。

立ち寄ってくれた人は、100人に迫ったでしょう。「エスペラント」の名を初めて聞いたという方々からの「どこで使われている言葉ですか？」という質問に「世界中です」などと答えながら、文字や文法の説明をしたりパンフレットをお渡ししたり。

「宮澤賢治もやっていたんですって」「ヤクルトの語源はエスペラントなんですよ」と話すと、多くの人が「へえ！」とおもしろがってくれました。エスペラント語の存在を記憶に残してくれたらいいな、と思います。



「詳しく聞きたい」とブースを再訪してくれた若い人や「興味があったので」とチラシやパンフレットを何点も持ち帰る人もいました。エスペランティストになった彼らに、いつか再会できたら嬉しいですね。

(後藤みわこ)

日本エスペラント大会の感想

第109回日本エスペラント大会は、八王子市にて9月23から25日にかけて開催され、397人が参加、うち現地出席が177人でした。名古屋エスペラントセンターからは6人が現地出席のほか、8人がオンライン出席または不在参加でした。

このうち、水谷良典、小川博仁、伊藤俊彦、今井田健二、湯浅典久、後藤みわこ（敬称略）の皆さんに感想をいただきました。

【水谷良典】

始めに（全般的な感想）

- ・今回初めて日本エスペラント大会に参加した。
- ・駅前のホールや会議室を備えたイベント施設を会場として開催された。主要駅に近いという利便性があり、1ヶ所（2フロア）ですべてのプログラムが行われ、わかり易くて良かった。
- ・八王子車人形については予備知識が無かったが、人形浄瑠璃の一形式と言えわかり易い。人形浄瑠璃では人形一体を三人で操ることもあると言うが、人形一体を一人の人間が操るものである。そしてそれを可能にするために操る人が箱車にすわって両手両足で人形の両手両足、目、口、頭を操作するのである。それを名人が操作すると、まるで人形が生きて演じているかのようで神懸かっている。わなわなと泣く姿、落ち込んでヨタヨタと歩く姿、誇張した表現と相まって感動ものである。

Publika Prelego; (Federico Gobbo)

Nova erao de komunikado kaj Esperanto post kronvirusa pandemio

(コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント)

本講座は、オランダのアムステルダム大学エスペラント学講座担当教授フェデリコ・ゴッボ氏を講師とした、リモートによる公開講演だった。

まず最初に感じたことは、司会者（上農百合子氏）のエスペラントでの挨拶が大変はっきりと落ち着いた速度でなされ、初心者にも聴き取り易かったことである。通訳・解説者の話は小生にはあまりにも速過ぎて所々しか聴き取れなかったが、こちらは同じ内容を即刻日本語で話してもらえるので理解できた。また、逐次通訳でわかり易かった。

まず、エスペラント講座を学ぶことができる大学が世界にたった三か所（ポーランド、中国、アムステルダム）しか無いことを知った。また、エスペラント語を話すことが出来るようになった時に、「次に目指すものは何か？を考えよ」との主張には驚かされた。確かにその通りで、言語の習得に全精力を注いでいてその後のことについて余り考えたことがなかった。但し、実は現在のメル友との文通の中で一

度考えたことがあり、その時自分は日本文化を外国に伝えることに携わろうと思った。だけど、そのもう一つ先については考えたことが無かった。

講師は「エスペラント語の為にエスペラント語を使うのではなく、世界を良くするために使う（積極的中立主義）を勧めている。エスペラント語に取り組んで現在の環境問題に関心を持つことで、エスペラント語も引き継がれると思う」と話している。目先にばかり捕らわれるのではなく、その先に明確な目標を定めて進んで行かねばならないと痛感した次第である。

Elementa Kurso de Esperanto (gvidis: Huzimaki Ken'iti)

エスペラント初級講座 (講師:藤巻謙一さん)

本講座は、独習や講習会、通信講座などでエスペラント語を一通り学んだ人が対象で、復習の為に受講した。

講座の時間は90分で、基本からスタートして次第に複雑な文章を音読するという内容であった。単純な文章から修飾語を次々に加えて、複雑になった文章でも理解できるようになるという構成だが、進め方が見事で感心した。

また、基本文法を理解した後は、いちいち翻訳をせずにエスペラント文を音読することが藤巻先生のお勧めで、例えばディクテーションの場合でも一通り文章を書いた後に音読することで対格のnの抜け等間違いを見つけることが出来るとの説明があった。

小生としては、上記に加えて「毎日」が必須と思っている。毎日の積み重ねにより「ちりも積もれば山となる」との例え通り、ホンの少しづつ蓄積していくようだ。正に、語学においては「継続は力なり」である。とても良い勉強になった。

【小川博仁】

今年のJEKでは、（一般公開のものを含め）3つの講演と2つの研究発表をZoomで視聴した：①フェデリコ・ゴッボ博士（アムステルダム大学教授）「コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント」[エスペラントは以下Eと略す]、②野間 秀樹（明治学院大学客員教授）「なぜ多言語か：複数のことばへの愉しみとE」、③神村 和美（城西大学准教授）「『転向』の時代とプロレタリア・エスペラント運動」の3講演—前2者は一般公開—ならびに、④白井 裕之（JEI職員）「歴史の影法師—S-ro Kio?とは誰か」、⑤菊島 和子「エロシェンコと秋田雨雀の出会いはい『どこで』だったのか」の2発表である。

他の講演「高杉一郎とE」ならびに残る2つの研究発表は都合が合はず聴けなかつた。

①D-ro Federico Gobboはイタリア出身でアムステルダム大学の国際語・E学講座の教授である。講演はEによる録画動画（和訳付き）で行なはれ。進行と訳、解説は上智大学教授の木村 護郎クリストフ博士が務めた。

技術の発展に伴って、E話者も拡大したが、これまでの消極的中立主義から「世界をよりよくするためにEを使ふ」といふ積極的中立主義へと転換をはかれ、との結論であつた。

②野間氏は朝鮮語が専門の言語学者で、美術家としての顔（自著の装丁も自ら行なふ）も有する。

まづ、国家と言語と民族とがイコールの関係ではないことが強調された。5千とも8千とも言はれる世界の言語が、たかだか200の国家と等しい訳がないといふのだ。また、日本「国」が歴史上「単一民族」国家であつたことなど一度もない由。アイヌや琉球の民を思ひ起こせば自明だといふことだつた。

朝鮮語の音節末閉鎖子音は非開放である：ビビンバ（<비빔밥[pi-bim-^hpap^l]）やキンパ（「韓国風の」のり巻き）（<김밥[kim-^hpap^l]）の語末の-pは上下の唇を閉じたまゝで、両唇を開いて破裂させはしないことや、K-POPの英語の歌詞でも閉音節の音節末子音がやはり非開放子音として歌はれることが例示された。

ヲガハの感想を2点述べる：①Esperantoは朝鮮語でも에스페란토[e-su-p^he-ran-to^h]と5音節で発音されて、音節末に子音-sは立ち得ずに母音ウ[u]がsの後に挿入される点は日本語と同じではないか；②非開放音節末閉鎖子音は他の東アジアや東南アジアの諸言語（例へばアイヌ語、広東語、タイ語、ヴェトナム語など）でも広く生じてをり、必ずしも「朝鮮語に特有の特徴」ではない。

③神村氏は戦前のプロレタリア文化運動の専門家だ。プロレタリアE運動（＝プロエス運動）の諸相を、JPEU（＝日本プロレタリアE-isto同盟）の活動や、MARSU、『国際語研究』やMajoの各誌を丹念に跡付けることで、再評価に成功してゐた。

④白井氏は、何盛三（が・もりぞう）一筆名S-ro Kio?ないしM. Que?（＝ムッシュー・ク [「無宿」のシャレ]）一のあまり知られてはゐない波瀾の一生涯を紹介した。

⑤菊島氏は、エロシエンコと雨雀との出会いの場所とその日付に関する二つの説を再検討した。雨雀の日記は必ずしも当日の出来事の確実な記録や證拠とは限らない、といふことであつた。

なほ、一日目午後に予定されてゐた「国際共通文字」の分科会が都合により急遽中止されたのは残念だつた。また、二日目午前の「JEI会員総会」では、部屋の奥の方からの発言をマイクが拾ひ切れずに、何を言つてゐるのかほとんど聞き取れないことがあつた点を附言しておかう。

【伊藤俊彦】

日本大会は、オンラインでの開催もいいけれど、やはり現地参加するのがいちばんである。9月23日から25日まで、八王子市で行われた第109回日本エスペラント

大会に参加した。会場を遊弋し、いろいろなプログラムをのぞき、知人たちと顔を合わせて話し込み、図書販売コーナーで本を手にとってめくり、食事をともにしたりして（残念ながらbankedoは開催されなかったが）、楽しい3日間を過ごすことができた。

エスペランチストでない研究者たちによる講演が2本あり、いずれも大会前からぜひ聞いてみたいと期待していた。太田哲男さんによる「高杉一郎とエスペラント」、そして、神村和美さんによる「『転向』の時代とプロレタリア・エスペラント運動」である。いずれも、地道な内容で啓発された。ただ、ともに、ほとんど高杉本人の、あるいはプロエス運動当事者の、それもエスペラントではなく日本語で書かれた資料のみに依拠していて、「外部」からの新鮮な視点があまり感じられなかったのは物足りなかった。

北川久氏が中級講座を担当された。テーマは1936年に悲劇的な死を遂げたガルシア・ロルカの詩で、そのエスペラント訳をめぐって、スペイン語の原詩と対比しつつ分析し、外国文学をエスペラント訳で読むことの意義を説くものであった。あいにく高杉一郎に関する講演の並行番組だったので、最後に少ししか出られなかったのは残念だったが、PDFの資料を読んでじっくり味わいたい。

大会記念品は堀泰雄さんの『1930年代を生きたエスペランチストたち』と題する、B5判、300ページに及ぶ労作である。1930年代に故島崎敏一氏がドイツ、アメリカ、ソ連、満州その他のエスペランチストたちから受け取った手紙を同時代の状況を踏まえながら読み解いていく、きわめて知的な刺激にみちた著作である。

上記の2講演、中級講座、そして大会記念品のいずれも、総じて、1930年代という危機の時代におけるエスペランチストのあり方をめぐる企画である。現在、世界ではウクライナ戦争を初めとして、きな臭い雰囲気立ち込めており、そうした状況で、さながら「戦前」のただなかにあるような思いにとらわれ、さきの「戦前」が一層切実なものと感じられる。そういう意味では、1930年代のエスペランチストたちに焦点を当てたのは、どこまで意識的であったかはともかく、時宜を得た企画であったと思う。

また、Movada Foiroで行われた木村護郎クリストフ氏を囲む座談会も興味深かった。木村氏が若い人たちからの質問に答えるというかたちで、ウクライナやロシアのエスペランチストの意見を取り上げながら、まさに現在進行中のウクライナ戦争を論じていて、共感するところ大であった。

大会に引き続き、八ヶ岳エスペラント館でかねてから参加しているホリゾン塾の第4回が行われるので、閉会式終了後、直ちに中央本線で同館へと移動し、翌26、27日と行われた会合に出席した。ソ連のエスペランチストから島崎さんあてに送られた手紙を読み解くのが今回のテーマである。スターリンの大粛清の直前、1930年代初頭におけるソ連の若者たちからの手紙は、文法的には間違いだらけで、その解

読に難渋したが、歴史的資料としては極めて貴重なものであり、大いに知的な刺激を受けた2日間であった。

【IMAJDA Kenĝi】

Fakte mi ne povas ĝui sufiĉe ĉi-jaran kongreson pro kelkaj kialoj. Unue, rete partopreni en hibrida kongreso sentigis al mi solecon kompare kun la last-jara. Due, mi ĉefe nur aŭdis la programerojn zorgante mian infanon. Fine, mia komputilo fojfoje malfunkciis.

Malgraŭ tio la malferma prelego de Federico Gobbo interesis kaj pensigis min pri estonteco de Esperanto. Aŭdinte lian proponon de ligo inter Esperanto kaj mediprotektado, mi pensas, ke tio estas la nova ideo de Esperanto. Multaj, inkluzive min, kredas, ke la ideo de Zamenhof estas la plej grava esenco de Esperanto. Aldone al tio, tamen, Esperanto povas havi aliajn ideojn, se ili celas harmonion de la mondo.

【湯浅典久】

日本大会は、オンライン参加でzoomのギャラリーホールのみでの参加でした。

9月23日（金）は開会式、野田淳子さんコンサート、9月24日（土）は野間秀樹さんの「なぜ多言語か：複数のことばへの愉しみとエスペラント」、芸能の夕べ・「八王子車人形」、最終日の9月25日（日）は閉会式を見ました。

圧倒的に素晴らしかったプログラムは「八王子車人形」で、初めて見ました。「ろくろ車」と呼ばれる箱型の車に腰掛けて、1人で一体の人形を操る。3人で一体の人形を操る「文楽」と異なり、人形の足が直接舞台を踏めることでより人間らしく力強い演技が可能だそうです。国の重要無形文化財に指定され、海外でも通用する国際性を持つ芸能だと思いました。

野間秀樹さんの講演は、言語学というとなると難しいと一番に感じられますが、ご自身の多方面に渡るアプローチで楽しく見ることができました。

来年の大会は、川崎との発表がありましたが、オンライン参加併用が一般化しています。自宅で気軽に参加できるようになりました。魅力あるプログラムを希望します。

【後藤みわこ】

四十余年続く筋金入りの「初級者」を脱し、「中級者」と成長すべく、亀の歩みで勉強中です。zoomで日本大会に参加しました。

実は亀にも「遅い」と叱られそうなペースなのですが、「継続は力なり」ですね。

共有画面のエスペラント文が（初見なのに）音読できる、チャット欄に書かれた海外の方からのメッセージの意味がわかる、講演される方の言葉が聞き取れる……何かが「できる」と感じるたび、ひとり、PC前でニコニコ（ときにはニヤニヤ）していました。

わたしは、特に北川理事長のスピーチが好きです。聞き取りやすく、何のお話をされているかが、わたしにも伝わります（「理解できます」とは、まだ言えませんけれども）。

初級者にはハードルが高そうな日本大会。

一部分でも「読める！」「わかる！」と感じられたら、エスペラントの勉強がますます楽しくなると思います。ベテランの方にはない（もう忘れてしまった？）であろうミラクルな喜びを味わえて、お得です。

そんなお勧めをする亀なわたしの次なる目標は（誰かと）「話せる」です。

←これは、今大会ではじめて導入された番組アプリの一画面です。「ことのはアプリラート」で有名なJ-MENTさんが開発デザインからデータ収集まで手がけられました。見たい番組がすぐに探し出せるように工夫されています。



従来の大会で配布されていた『大会冊子』は印刷されず、PDF版を各自がダウンロードするように推奨されました。

Deklaro de la 107-a Universala Kongreso de Esperanto en Montrealo, Kanado

第107回世界エスペラント大会宣言

日本語訳：今井田健二

La 746 partoprenantoj - el 57 landoj - de la 107-a Universala Kongreso de Esperanto, kunveninte en Montrealo, Kanado, de la 6-a ĝis la 13-a de aŭgusto 2022, traktis la kadran temon “Lingvo, vivo, tero: Jardeko de Indiĝenaj Lingvoj.” Per teritoria agnosko en la malferma ceremonio de la Kongreso, ni esprimis nian profundan dankon al la diversaj indiĝenaj nacioj, unuavice la ganjenka popolo (Kaniien’kehá:ka, Mohawk), kiuj neniam cedis siajn rajtojn je tiu teritorio, kie ni kunvenis.

Per prelegoj, filmoj, diskutrondoj, kaj ankaŭ lingvokurso pri la aniŝinabeka, ni lernis pri la granda diverseco de indiĝenaj lingvoj kaj kulturoj en Nord-Ameriko kaj tutmonde. Ni konstatis, ke indiĝenaj popoloj ludas gravan rolon en la konservado de naturaj resursoj kaj biologia diverseco, kaj estas portantoj de fundamentaj scioj por nia daŭripova ekzisto sur la Tero. Ni krome aŭdis kiel, malgraŭ multaj baroj kaj atakoj al iliaj rajtoj, tiuj popoloj organiziĝas por daŭre plenumi siajn tradiciajn okupojn, konservi siajn kulturajn praktikojn kaj aserti siajn rajtojn je siaj teroj.

2022年8月6日から13日まで、カナダのモントリオールに57の国から集まった第107回世界エスペラント大会の746人の参加者は、「言語、生活、土地 — 先住民族言語の10年—」というテーマを論じました。大会開会式での「領有認定」をもって、私たちが集まったこの地に関する権利を決して譲らなかつた様々な先住民族、第一にガンイェンカ族（カニエンケハーカ、モホーク族）に深く感謝の意を表しました。

私たちは、講演、映画、討論会、それにアニシナーベ語講座を通して、北アメリカおよび全世界の先住民族の言語と文化がとても多様であることを学びました。先住民族は天然資源と生物多様性の保全に重要な役割を果たしている、そして我々が地球に存在し続けるために必要な基本的知識の持ち主である、ということを確認しました。権利に対する多くの障害や攻撃にもかかわらず、彼らが伝統的職業を担い続け、文化風習を保ち続け、土地の権利を主張し続けるために、いかに団結しているか、ということも聞きました。

Honore al la komenco de la Internacia Jardeko de Indiĝenaj Lingvoj (2022-2032), nia Kongreso eldonis novan tradukon en Esperanto de la Deklaracio de Unuiĝintaj Nacioj pri la Rajtoj de Indiĝenaj Popoloj. Inter la multaj rajtoj agnoskitaj en tiu dokumento, ni aparte atentigas pri Artikolo 13, laŭ kiu “Indiĝenaj popoloj rajtas revivigi, utiligi, evoluigi kaj transdoni al estontaj generacioj siajn historiojn, lingvojn, buŝajn tradiciojn, filozofiojn, skribsistemojn kaj literaturojn, kaj asigni kaj reteni siajn proprajn nomojn por komunumoj, lokoj kaj personoj.” Kiel movado por lingvaj rajtoj, ni esprimas nian fortan subtenon al tiuj principoj.

La parolantoj de Esperanto alte taksas la valoron de kultura kaj lingva diverseco kaj kunlaboras por realigi lingvan demokration en monda skalo. Konforme al tiuj celoj kaj al la informoj kaj ideoj pritrakitaj en ĉi tiu Kongreso, ni deklaras nian solidarecon kaj subtenon al indiĝenaj popoloj en ties streboj por memdetermino, paco, justeco, kaj interkompreniĝo.

国際民族言語の10年（2022-2032）の始まりをたたえて、私たちの大会は「先住民族の権利に関する国際連合宣言」の新エスペラント訳を出版しました。この文書の中で認められた数々の権利の中でも、私たちは特に第13条に注目しています。それによれば、「先住民族には自分たちの歴史、言語、口頭伝承、哲学、文字体系、文学を、復興させ、活用させ、発展させ、次世代に伝えていく権利と、自分たち固有の集団名、地名、個人名を保持する権利がある」のです。言語権運動として、私たちはこれらの原則を強く支持することを表明します。

エスペラント話者は文化や言語の多様性を高く評価しており、世界規模で言語民主主義を実現するために協力しています。これらの目標と今大会で扱った情報や理念に従って、私たちは、先住民族が自決、平和、正義、相互理解に向けて努力するにあたり、彼らと連帯すること、彼らを支持することを宣言します。

対訳『私たちは生きる！ Ni Vivos!』について

黒柳 吉隆

恵那学習会が、Julian Modestのドラマ、「Ni Vivos!」を対訳本としてこの度出版しました。共同翻訳者の一人として雑感を記します。

ご存じの方も多いと思いますが、原作は、ザメンホフ博士の娘、Lidiaが最後の数年をナチスの迫害を受けながらユダヤ人居住地ゲットーで過ごした生活を描いた全9場のドラマです。（発表の翌年、1983年には、ブダペストの世界大会で上演されています。）

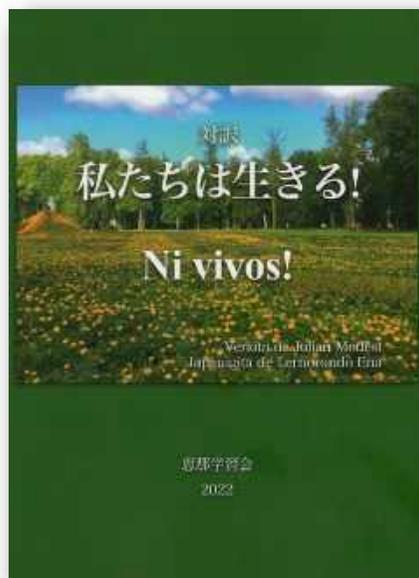
メンバーが分担して翻訳し、それをみんなで意見を交わして修正していきました。原作は、比較的容易なEsperantoですので、内容を理解するのはすぐできました。しかし、印刷物として出版し、上演できる脚本にするには、日本語の用語の選び方に議論がおよびました。例えば、原作では、家族や親しい友人、知人には名前の「呼び捨て」でも、日本語では、「お姉さん」とか「○○さん」とかにしないと落ち着きませ

ん。また、ナチスの上官と部下とのやり取り、Lidiaたちに対する言葉遣いもEsperantoと日本語では違います。当初は、学習書として「できる限り直訳に近い対訳を」とも考えましたが、それでは脚本とはならないこともわかりました。

でき上がったものを手分けして、エスペラント界内外の友人、知人に贈呈しましたところ、文字を大きくしたことや装丁が予想以上にうまくできたこともあって好評で、「学習書にしたい」という注文もあり、初版300部がもう手元にほとんど残っていません。

恵那学習会は、会則もなく参加自由で、月に1回程度会員宅に集まって、終日、読書会を中心に、外国からの客人があれば、お茶会や遠足をして歓迎し、もう20年以上続いています。コロナ禍以降、直接の集まりができなくなってインターネットで会合していますが、週に1回程度に回数が増えました。現在の常連は6人で、全員中級者です。読んでいる本から、文法の話や、それぞれの人生体験による話題に脱線したり、海外旅行やエスペランティストとの交流の話題などに及びます。こうした中で、上記の翻訳、出版に至りました。本として出版する責任を明確にするために、この本の紹介者であり、（一財）日本エスペラント協会に代表者として届けてある藤本日出子さんに発行責任者になっていただきました。

普通の体力と少しの知的好奇心があれば、Esperantoは人生を豊かにしてくれる道具になります。とりわけ、仕事を離れて、自由な時間が増える定年退職者の第2の生活にはいいものです。私も定年退職後に恵那学習会に参加できるようになりましたが、今までの活動の経験から、そう言えます。恵那学習会の活動の成果の一つであるこの本から、そんなことを理解して、Esperantoに関わり続ける人、新たに学習を始める人が増えることを期待しています。



Vidindaj Lokoj en kaj ĉirkaŭ Nagojo (13)

Toyota Memora Muzeo de Industrio kaj Teknologio (Toyota Techno Museum トヨタ産業記念館)

Unu el la plej grandaj sukcesoj de japanaj industrioj devus esti tiu de la Toyota grupo. Grupfondinto Toyoda Sakichi dediĉis sian vivon al evoluigado de teksiloj. Lia unua filo, Kiichiro, adaptis la maŝinaron kaj teknologion, kaj komencis konstrui motorveturilojn, naskante la Toyota Motoro Korporacio (Toyota Motor Corporation).

La Toyota Memora Muzeo de Industrio kaj Teknologio situas en la loko de la origina firmao en centra Nagojo, ne malproksime de Nagoja Stacio. Ĝi utiligas ruĝbrikajn konstruaĵojn de la origina fabriko de aŭtomata tekstilo



por montri la historion de la Toyota grupo, de ĝia humila komenco kiel teksaĵfabrikisto ĝis ĝia evoluo al internacia produktanto de aŭtomobilo kaj pli.

La muzeo estas dividita en kelkajn sekciojn kaj pavilonojn, kiel ekzemple la Tekstila Maŝinaro-Pavilono kaj la Aŭto-Pavilono. Multaj el la bone konservitaj kaj elmontritaj maŝinoj en la Tekstila Maŝinaro-Pavilono daŭre funkcias. La laborekspoziciaĵoj estas fascinaj, kaj la amikaj gvidistoj fervoras kunhavigi sian ampleksan scion. Tiu estas eduka, informa kaj ĝua sperto por homoj de ĉiuj aĝoj.

La granda nombro da motorveturiloj en la duetaĝa Aŭtomobila Pavilono aspektas kvazaŭ ili ĵus eliris el la produkta linio.

Vi ne devas esti specialisto aŭ entuziasmulo de aŭtomobilo por ĝui la muzeon: ĝi estas interesa kaj amuza por ĉiuj.

Teknik-lando (*Technoland*) donas diversajn praktikajn edukajn spertojn al la infanoj. Ili lernas pri teksaĵa fabrikado kaj aŭtomobiloj per ludado per interagaj ekranoj, iloj kaj aparatoj.

La muzeo estas bele aranĝita kaj estas kompleta kun restoracio, kafejo, ĝardenoj kaj muzeobutiko ankaŭ.

Kvankam la oficiala retejo diras, ke vi bezonos horon kaj duonon, lasu vin pasigi tri horojn por vidi kaj preni ĉion.

(Katayama Hiroko)

活動日誌（8月から10月）

8/15（月）	19時から21時	個人レッスン
8/17（水）	19時から21時	個人レッスン
8/19（金）	19時から21時	個人レッスン
8/23（火）	19時から20時半	センター委員会（オンライン）
8/26（金）	17時半から19時半	中級学習会
8/30（火）	16時から18時	読書会（オンライン）
9/8（木）	17時半から19時半	中級学習会
9/20（火）	16時から18時	読書会（オンライン）
9/29（木）	19時から20時半	センター委員会（オンライン）
9/30（金）	17時半から19時半	中級学習会
10/7（金）	17時半から19時半	中級学習会
10/18（火）	15時から17時	読書会（オンライン）
10/28（金）	17時半から19時半	中級学習会
10/22（土）	終日	ワールド・コラボ・フェスタ（オアシス21「銀河の広場」）
10/24（月）	18時半から20時	センター委員会（オンライン）

これからの活動

ザメンホフ祭

今年のザメンホフ祭では全員参加型とし、
すべての参加者からスピーチをしていただけるようにします。

- ▶ 期日：12月11日（日）午後2時30分から5時30分
- ▶ 場所：名古屋エスペラントセンター事務所
- ▶ 参加費：1000円
- ▶ 内容（オンラインなし、対面型）
 - 1 参加者全員による体験発表
 - 2 歌や動画で楽しむ
 - 3 私が読んだEの本
（内容についてはまだ流動的です）
- ▶ 終了後、懇親会あり（会費別）

懇親会の場所および会費は未定ですが、必ず事前予約をお願いします。
- ▶ 参加申し込み先：山口真一<syam-z@wa2.so-net.ne.jp>

入門講習会

- ▶ 期日：全5回 ('22) 11/17, 12/1, 12/15, 12/26, ('23) 1/5
- ▶ 場所：名古屋市中区生涯学習センター
- ▶ 受講料：5000円（テキスト代含む）
- ▶ テキスト：ニューエクスプレス・エスペラント語（白水社）
- ▶ 講師：永瀬義勝

日エス現代用語集

本年の小坂賞受賞者である山川修一さんが編纂された『私家版 日エス現代用語集 第4版』のPDFファイルが、JEI会員を対象に無償公開されています。JEI会員専用サイト（<https://membroj.jei.or.jp>）からダウンロードできます。会員専用サイトへアクセスするためにはパスワードが必要です。（わからない場合は事務局へ問い合わせてください）

この用語集は、宮本『日エス辞典』に収録されていない約9500語を見出し語に収録し、ITなどの専門用語だけでなく日常用語にも目配りが行き届いており、現代生活を表現するために便利です。

▶ 編集後記

○今月中頃、私もコロナに感染しました。通常の風邪よりもやや長引きはしましたが、軽度の症状で収まっています。これだけ感染者数が多いと、いつでもどこで感染してもおかしくはないのですが、気をつけるにこしたことはないですね。○アジアオセアニア・エスペラント大会にはもう申し込まれましたか？前号で、「名古屋-釜山の間に直行便がある」と書いてしまいましたが、間違いでした。お詫びします。関西からは直行便があります。または中部から福岡を経由する方法もあります。が、現時点で直行便がないというのはどういうことか、と思います。○ザメンホフ祭でぜひお会いしましょう。たまにはオンラインでない集まりがやはり必要です。（山口）

センターの会員（維持員）募集中

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。